

研 修 レ ポ ー ト

環境整備 特別委員会

10月4日・5日
研修先
岩手県葛巻町



▲木質バイオマスガス化発電に使用されるチップ

10月4・5日に岩手県岩手郡の「北緯40度ミルクとワインとクリンエネルギーの町」葛巻町へ新エネルギーに関する視察に行ってきました。葛巻町は人口7813人、総面積の86%を緑豊かな森林が覆い、古くから酪農と林業が盛んに行われています。現在は新エ

ネルギーの導入（風力発電・太陽光発電・畜ふんバイオマス、木質バイオマス等）から注目を集めており、町に3社ある第三セクターの黒字経営や雇用創出から地域の活性化も図られ、20年前は年間5万人にも満たなかった観光客が今では年間50万人にも膨れ上がっています。一昔前までは「ないない尽くし」の過疎の町だったとはとても想像ができません。町のあらゆる所に新エネルギーの設備や施設が見られ、町民の理解と協働による町ぐるみでの取り組みが伺えます。さらに町議会の自費によるデンマークへの視察研修もきっかけとな

なっていることから、議会の役割も大きいことが解ります。小さな町が地球規模の危機感を持って地域資源を活かす取組みを行い、地方の役割を果たしていることから、小さな村でも発想の転換からできることがあるのではと考えさせられる研修でした。

基地対策・幹線道路特別委員会

10月21日・22日
研修先
・陸上自衛隊北宇都宮駐屯地
・宇都宮市役所

北宇都宮駐屯地は、榛東村にある第12旅団第12ヘリコプター隊の第1飛行隊の駐屯地になっています。航空学校宇都宮校としての任務もあり、年間80名余りの航空操縦士を養成している、年間に200時間の飛行を重ねて巣立つと聞きました。

見学では、ヘリコプター4機種について説明を受けました。説明時間帯も、飛行場では離発着の訓練が行われており、格納庫内での説明も騒音により時々中断され、予定した時間を30分近くオーバーする北宇都宮駐屯地の訪問でした。午後は、宇都宮市役所の3部署に分かれる基地関係職員との意見交換でした。自衛隊駐屯地が所在する市町村の現状と課題では、飛

行場の使用状況で航空機が上空を通過する回数が平成19年度は1日平均67回でほぼ横ばい、夜間飛行訓練は、21年度で73回でした。防音工事は、現在までに4,300戸のサッシや天井補強が行われている。また、防衛補助事業及び基地交付金については、小学校等で5校の防音工事に17年度以降5カ年で7億1,800万円余りの補助金です。民生安定施設整備は、17年度から21年度の過去5年間で、道路改良は14年度から26年度までの継続事業で、消防ポンプ車や地域のコミュニティ

センターなど、8億8,400万円です。基地交付金は、年により増減がありますが、平成21年度は9,900万円余り。自衛隊との連携では、国・県・市災害対策連絡協議会が設置され、その下に災害対策担当課長連絡会議が

あつて、豪雨による冠水被害を想定した合同訓練の実施や林野火災防衛合同訓練を行うほかに、宇都宮駐屯地創立記念行事など5回の行事に参加しています。平成22年4月1日現在で50万8,775人の人口を抱え、市の22年度一般会計予算が1,812億円、特別会計・企業会計を加えた総額では、3,222億円とビッグな宇都宮市に対して比べようがない榛東村ですが、基地を抱える自治体として課題は同じであり、研修の成果を生かして対策に取り組んでいきます。



▲装備の説明を受ける委員

町村議会議員研修

10月28日 吉岡町文化センター

- ・演題 地域主権改革とこれからの町村
講師 東京大学名誉教授 大森 彌 氏
- ・演題 管政権と政治の行方
講師 共同通信社特別編集委員 西川 孝純 氏

2氏が共通して訴えているのは、農業、林業は競争させてはならない。米を守るために、一人ひとりが毎日できることをする。三度の食事で米を食べること。食べ残しをしない。また、行政学・地方自治論が専門の大森氏は、平成の大合併が失敗であったことを自民党も総務省も認めていると述べた上で、「合併はしないでください。単独で自治を守って」と町村の未来を託すかのように熱っぽく語りました。一方、西川氏は、短命首相が続く政治の貧困が深刻になっていることや一つの派閥をつくって修羅場をくぐり抜けてトップに昇った「指導者像を語り

ました。マニフェストは忠実に守らなければならないが、管政権では見直しもやむを得ないのではないかとの分析でした。議会の役目は、積極的に国への意見書をあげることで住民本位の自治確立、国政を軌道修正できるのではと身の引き締まる思いでした。

北群馬郡町村議員研修

10月29日

- 演題 地域福祉について
- 講師 群馬県社会福祉協議会
参事(総括)兼総務企画課長
茂木 知行 氏

社会福祉法の第107条では、地域の中で地域福祉の推進に関し、地域福祉計画を市町村として作成することが定められています。この計画を実施するため大きな貢献をしているのが県内4,000人の民生児童委員です。ふれあい・いきいきサロン活動は本村

では26カ所で実施しています。県内全体では1,500カ所になっています。また、災害が起きた場合の高齢者安否確認の手段としてマップづくりが本村の取り組みとして紹介されました。地域福祉活動計画と地域福祉計画は35市町村(県内)中10カ所だけが作成済みです。地域福祉が根付くにはきちんと村として計画を持つことが大切だと考えます。

議員全体研修

11月1日

研修先 なかくすくそん
沖縄県中城村

人口1万7,426人。議員16人の中城村は、肥沃な土地を利用してサトウキビを中心に島ニンジンなどの野菜類やバナナ、電照菊栽培と幅広い農業が営まれています。村の基幹作物であるサトウキビは、収穫作業が重労働であること

や農家の高齢化により栽培面積が減少しているとのお話でした。一方村には、2,000年「琉球王国のグスク及び関連遺産」に登録された中城城跡があります。年間8万6,000人ほどの観光客が訪れます。本年8月には、世界遺産登録10周年記念の祭りが開催され、2日間で6,133人が集まりました。村出身の歌手・グループによるコンサートやライブ、歌とトーク、ピエロショー、子どもフェスティバル、太鼓、エイサー、伝統芸能の発表等で笑顔と感動があふれたと聞きました。本村と共通点が多く農業振興や茅野遺跡の魅力発信にヒントを探れると確信しました。



▲農業振興と観光の説明を受ける議員

「しんとうむら議会だより52号」(9月定例議会)は今回初めてクリニックに応募しました。優れている点・検討・改善したい点を、丁寧にアドバイスしてくれたのは、広報コンサルタントの深沢徹氏です。ご自身も衆議院議員秘書を経て、昭和38年に山梨県身延町議会議員として当選以来6期24年間、議会広報編集委員長を務めた方です。予算・決算での用語はわかりやすい表現を工夫することも指導されました。

歳入↓主な財源、歳出↓使いみち。村債↓借入金、公債費↓借金返済、細部にわたり指摘されたことを次号(53号12月定例議会)からさっそく実践にうつす決意です。成果をご期待ください。

議会広報特別委員会

11月8日

研修先
群馬県市町村会館

研 修

総務文教常任委員会

11月11日・12日

研修先 新潟県^{せいろうまち}聖籠町

い社会の変化に対応できる「生きぬく力」を誰がどのよう
に育成するのか、平成18
年度から22年度までの5カ
年間をめどに、教職員を中
核に保護者、地域が一体と
なって推進する「教育指針」
を策定しています。ぜひ本
村としても取り組んでほし
いと感じました。



▲園内で遊ぶ子どもたち

聖籠町では、平成17年か
らこども園を実施していま
す。保育園の機能も持つて
いる幼稚園事業ということ
です。そのため職員は保育
士と幼稚園教諭の資格を取
得しています。こども園に
なつて変わったことは、
◎教育的環境と保育的環境
の両面があり、保育の質が
高くなった(保護者)
◎無理なく小学校へ入学で
きる(職員)と評価してい
る一方で職員からは「名称
がこども園になつているが、
実質、幼稚園なのではしっ
かりと研修をしたくない気持
ちはあつても時間がないと思
うようにできない。」と改善
の要望があります。町内には
3つのこども園と0歳から
3歳までの乳児保育として
私立保育園が3園、町立が
1園あります。町では激し

認定こども園とは

幼稚園、保育所等のうち、
次の機能を備え、認定基準
と満たす施設は、都道府県
知事から「認定こども園」の
認定を受けることができる。
○就学前の子どもに幼児教
育・保育を提供する機能
(保護者が働いている、いな
いにかかわらず受け入れて、
教育・保育を一体的に行う
機能)



▲パネルを見ながら説明を受ける議員

議員全体研修

9月27日

研修先 陸上自衛隊
相馬原駐屯地

議員全体研修として自衛
隊を訪問したのは、初めて
の試みでした。相馬原駐屯
地の主要部隊は、第12旅団
司令部・第48普通科連隊・

◎地域における子育て支援
を行う機能
(すべての子育て家庭を対象
に、子育て不安に対応した
相談活動や、親子の集いの
場の提供などを行う機能)

議員全体研修

11月1日

研修先 嘉手納飛行場
普天間飛行場

◎嘉手納道の駅屋上から嘉
手納飛行場の訓練風景を
見、沖縄防衛局担当者から
説明を聞きました。F15戦
闘機が爆音とともに飛行す
る様子は戦争そのものだと
恐怖を覚えました。案内し
たガイドさんは小学校・中
学校が普天間基地の隣だつ
たので身近すぎて怖さも何
も感じなかったと話してい
ました。騒音に対する損害
賠償裁判で平成22年7月に
判決があり、低周波被害も
認められたとのことでした

12ヘリコプター隊などで
す。
ヘリコプターの格納庫を
見学し、装備の説明を受け
ました。その後、駐屯地内
にある資料館(桜武記念
館・友魂記念館)を見学し
ました。



▲普天間飛行場の説明を受ける議員

◎普天間飛行場近くの嘉数
高台公園から、飛行場を囲
みびつしり建物で埋めつく
された宜野湾市を一望しま
した。その一角には、平成
16年8月に米軍ヘリコプタ
ーが墜落した沖縄国際大学
も見えました。昭和54年か
ら一般住宅の防音工事が始
まり平成20年までに1万
1,600世帯の工事が済み
ました。宜野湾市の人口は
9万3,000人、世帯数
は3万8,900世帯です。
午後10時から翌朝6時まで
は訓練を制限しているとの
ことでした。本村における
ヘリコプターの騒音や低周
波の被害状況の調査は当然
であり対策を万全に進める
べきではないでしょうか。